第２４回　松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ターゲット型（視察・訪問版）　三和本通商店街のみなさまと＞

対話録概要

と　　き	令和８年７月１日（水）　　午後７時から午後８時まで
と こ ろ	三和本通商店街組合事務所
出 席 者	参加者　２１人、市長ほか関係者　４人　　計２５人

【市長のあいさつ】

市長の仕事の中で大事なものの一つは、市民や事業者の方々の声に耳を傾け、そこでいただいた意見を市政に反映していくことであると思っている。もちろん全ての意見に対応するというのは難しいかもしれないし、実現には一定の期間を要するかもしれないが、市役所だけでまちづくりを進めるのではなく、色んな方の意見をいただきながら、尼崎市をもっと魅力的なまちへと発展させていきたいと思っている。

様々な立場の方の意見を聞く機会として車座集会を実施しており、今回で通算24回目の開催となる。本日はお店の営業が終わった夜の時間帯に来ていただき感謝している。１時間程度の限られた時間ではあるが、皆さんが市民として、また三和本通商店街で店舗を営む経営者として思うことなど自由に発言してもらいたい。

【意見交換】

〈参加者〉三和本通商店街は空き店舗が多くなっており、防犯や防火の対策について課題があると感じている。夜になると辺りは真っ暗になるため治安の面で心配であり、商店街活性化による人の往来の増とエリアの治安向上対策が必要と考えている。あわせて、この辺りは海抜も低く、避難誘導板などについては、商店街の中の構造物であっても構わないので取り付けてもらいたい。また、マンション建設が増えてきているが、ワンルームマンションが多く、家族向けが少ない。商店街としては地域に根付いてもらえる家族向けの住宅供給が進めば嬉しい。加えて、忍たま乱太郎というキラーコンテンツがある中、そうしたコンテンツを使った商店街の活性化に向けて、市とともに取り組んでいきたい。

〈市長〉商店街の空き店舗にも当然のことながら不動産事業者などオーナーがいる。よく色んな方から空き店舗をどうするのかなど聞かれることもあるが、民有地であるため行政の独断で進めることはできないが、空き店舗の解消はまちづくりを進めていく上、大事な観点であると思っている。そのため、オーナーが特定できれば話し合いの場を持つなどして、空き店舗状態の解消に向けた協議を進めていくことができるため、商店街と連携していければと思う。

〈参加者〉商店街の中のシャッターが下りている店舗は実は、店舗と住居が一体となった構造で、店舗は営業していないものの住居があるため貸せないという事情や倉庫に使っているなど構造上の課題があることにより稼働ができてない場合もある。

〈市長〉マンションのディベロッパーからすると、ワンルームマンションは収益性も高く供給が進んでいる現状がある一方、ファミリー向けのマンションが少ない点は課題であると思っており、ゆとり

ある住宅の供給に向けた開発基準や規制の緩和に向けて議論を進めている。NHK アニメ「忍たま乱太郎」の原作である「落第忍者乱太郎」を活用するにしても権利関係による許可を一つ一つ得ていく必要がある。今後も「落第忍者乱太郎」の作者である尼子先生とも連携しながらコンテンツを活用していければと思っている。

〈参加者〉商店街を活性化するための手法としてウォールアートがおもしろいと思っている。大阪でもウォールアートを描くことにより町興しをしている地域があるため、この三和通商店街界隈でもウォールアートを描くことにより、アートを楽しんでもらいながら商店街で買い物をしてもえればと思う。先日も商店街のシャッターに落書きをされたが、一層のことシャッターにアートを描ければおもしろいかもしれない。

〈参加者〉かんなみ新地が閉鎖したことにより治安は向上したかもしれないが商店街のお客さんは減った。

〈市長〉旧かんなみ新地については、あのエリア一帯を市が買い取る方針であり、現在、土地建物の所有者と鋭意調整を進めており、あと１件というところまで来ている。買い取り完了後の利活用の方針は決まっていないものの、地域の環境改善と価値向上につながるようなエリアになればと思っている。単なる公有地として売却した場合、こうした行政の想いは達成できない可能性もあるため土地活用策は市役所で議論していかないといけない。

〈参加者〉具体的なイメージはないが、大阪などにもないような飲食もできる娯楽施設が出来ればと思う。地元の方のみならず遠方の方にも楽しんでもらえる施設が出来れば、そこから三和本通商店街に足を運んでくれる人が増えるかもしれない。

〈市長〉旧かんなみ新地の活用の前に整理すべき課題は阪神出屋敷駅前のリベルの活性化であると思っている。駅前の商業施設であるリベルが賑わっていない状態であれば、旧かんなみ新地を魅力的に感じる事業者もきっと少ないと思う。現在、市では担当課を設置しており、テナント誘致のための営業活動などリベル活性化に向けて取り組んでいるが、賑わいを取り戻すには時間がかかる。また、今後のまちづくりの観点から、阪神出屋敷駅周辺を商業エリアではなく住宅エリアとして発展させていくという考え方もあると思う。この三和本通商店街から阪神尼崎駅までを商業エリアとしつつ、阪神出屋敷駅周辺は住宅エリアになった方が地域としての賑わいにつながる可能性もあると思っている。

〈参加者〉阪神出屋敷前の空間が綺麗になったこともあり、例えば物産展など多くの人が集うようなイベントが開催されればと思う。また、昔は商店街で買い物をしていたお客さんも高齢化により来られなくなり、益々閑散としてきている。国道 43 号線以南は住宅がないのか。

〈市長〉国道 43 号線以南は工業専用地域が大部分を占めており、そこには住宅が建てられない。商店街活性化のためには、アーケードの改修、トイレや休憩スペースの設置、商店街独自のあま咲きコインのキャンペーンなど色々な対応策があると思うが、継続的に人が来るためには、周辺にマンションなど住居があり、そこに住む人たちにとって商店街へのアクセスの良さなどを感じてもらう必要がある。こうしたことを考えると周辺の住宅供給が進まないと根本的解決には至らない気がしている。

〈参加者〉三和本通商店街にバスで行こうとした際、停留所は北側にしかない。北側から南側へ抜けた際に容易に移動ができるよう商店街の南側にもバスの停留所があればと思う。物理的に道も狭く、大型バスの通行は難しいとは思うが、阪神バスの機能を補完するような移動手段があると嬉しい。

〈参加者〉若者にも多く来て欲しいため、近くに大学などがあれば、ワンルームマンションかもしれないが住宅が供給され、近隣の人口が増え、商店街の活性化にもつながる。
〈市長〉大学の誘致はすぐには難しいが大事な観点である。尼崎市内の大きな工場が閉鎖する際には、当該会社の本社などを訪問し、後の積極的な土地の利活用を依頼するような機会も度々ある。利便性が高い尼崎市内の土地は遊休地として眠らせるのではなく、やはり稼働させておいて欲しい想いがある。

〈参加者〉市外の人が尼崎市に来る理由など分析したことあるか。
〈市長〉そこまでの分析はしたことはないが、忍たま乱太郎を目当てで来る人は相当多いと感じている。
〈参加者〉ゼロカーボンベースボールパークが出来たことにより、阪神ファンが来ることも多くなった気がしている。

〈参加者〉これからの尼崎市のまちづくりはどういう考えを持って進めていくのか。
〈市長〉まち全体で成長していくことが大事であると思っている。そのためには若い世代に継続的に選ばれ、住んでもらい、人口規模を維持しながらも年齢構成のバランスが取れたまちである必要がある。尼崎市全体で見ると人口は少し増えており、全国的に見ても少子高齢化の中、人口増となっている自治体は珍しい。これは良い傾向であり、大庄地域におけるファミリー世帯が増えるなど、必ずしも市域の北側だけの人口増ではない。こうした傾向を継続させていくためには、空き家対策を進めていく必要があるし、住宅の供給が進むよう民間開発事業者にも尼崎市を魅力的に感じてもらえるようなまちづくりをしていく必要がある。あとは、企業の成長も大事であり、企業成長が税収増へとつながり、子育て施策、教育施策などが手厚くなっていくといった好循環を作っていければと思う。

〈参加者〉三和本通商店街はアーケードの老朽化が著しい。修繕するには多額の費用を要するため、なんとか支援してもえないか。市の補助事業があるものの、複数年をかけて改修をする場合であっても、初年度のみ等１か年分の補助金しかもらえないという認識である。

〈参加者〉外国人をよく見かけるようになった。この先も外国人は増える見通しか。
〈市長〉外国人は日本全体で、特に働く場所がある地域では増えており、大阪や神戸も外国人が増えている。これは国の入国管理政策によるもので、日本国内の労働力不足を補う観点から外国人の受入れが進んでいる。そうした中、心配していることとしては差別や分断が生まれることであり、彼らを採用した企業は企業として責任を持って例えば日本語教育を実施するなど、日本での生活に馴染めるような取組を進めてもらいたい。また、行政としては生涯学習プラザ等で外国人の方との交流イベントなどを開催し、相互理解に資する取組を進めるとともに、行政情報の多言語化などにも取り組んでいる。

〈参加者〉昭和の尼崎市をAIで復元し、インスタグラムで発信している人がいる。とても再生数が伸びているし、当時の様子を鮮明に再現している。三和本通商店街の動画もあり、昔と今の様子を見比べながら楽しんでもらえたらと思う。再現にあたっては昔の写真を集め、動画に仕上げているそうで、市が所有する写真なども活用することができれば面白い発信につながると思う。
〈市長〉確かに歴史を知ることはまちへの愛着につながると思う。新しいことばかりに焦点を当てるだけでなく、昭和レトロを感じてもらうための仕掛けは面白いかもしれない。

〈参加者〉最近開設したオープンイノベーション拠点「ARKade」（アーケード）については商店街の自分たちにとっても便利な使い方ができるか。
〈市長〉当該施設はものづくり企業を中心とした市内事業者の新規事業創出や、創業者・スタートアップの事業立ち上げ・成長等をサポートする施設であり、商店街の皆さんからすると利用する機会は少ないかもしれないが、誰でも利用してもらえる施設であり、コワーキングスペースやミーティングルームなどもある。必要に応じて活用していただきたい。

【おわりに】

尼崎市はこの20年間、行財政改革による事業の縮小や廃止などを進めてきた。ただ、今はそうした時期を乗り越え、少しずつかもしれないが、駅前や公園のリニューアルを進めることができるようになるなど財政状況が改善してきている。今後、残された課題はしっかりと克服しつつ、尼崎市が元々持つ魅力は伸ばしていきたいと考えており、商店街の活性化も含めて取り組んでいきたい。本日いただいた皆さんの意見も参考にさせてもらいながら今後のまちづくりを進めていきたい。

以　上